

事業所アンケート

アンケート依頼事業所	27事業所
回答事業所数	24事業所
回収率	89%

【問1】

事業の提供状況と今後の計画

	事業名	実施事業所数	今後増員・新規参入意向
1	居宅介護	3	
2	重度訪問介護	1	
3	行動援護		
4	同行援護	1	
5	重度障害者等包括支援		
6	生活介護	4	
7	短期入所	7	
8	療養介護		
9	共同生活介護		
10	施設入所支援	2	
11	就労移行支援	1	
12	就労継続支援A型		
13	就労継続支援B型	8	令和6年度増員検討 1件
14	自立訓練（機能訓練）		
15	自立訓練（生活訓練）		
16	共同生活援助	4	
17	障害児相談支援	2	
18	計画相談支援	6	
19	地域移行支援	2	
20	地域定着支援	2	
21	児童発達支援		
22	医療型児童発達支援		
23	放課後等デイサービス	2	
24	保育所等訪問支援		
25	福祉型障害児入所施設	1	
26	医療型障害児入所施設		
27	移動支援事業		
28	地域活動支援センター		
29	日中一時支援事業	1	
30	訪問入浴	1	

【問2】

利用者からの依頼に対して、受け入れ（事業提供）できなかったことがあるか。

受け入れ（事業提供）できなかった事業所数 12事業所
 受け入れ（事業提供）できなかったことがない事業所数 12事業所

【問3】

受け入れ（事業提供）できなかった事業とその理由

	事業名	事業所数	理 由
1	居宅介護	3	・③ ・③ ・④
5	重度障害者等包括支援		
6	生活介護	1	①③④及び、医療的ケアが必要な方への対応が困難で、利用日数の調整をさせてもらった
7	短期入所	5	・③痰の吸引が頻回に必要なため ・①⑤園内で感染症が蔓延したため ・⑤個室に空きがないため ・③ ・①②⑤女性専用のグルホでの短期利用の空きがない。土日祝日の利用ができない。
11	就労移行支援	1	⑤本人に就労の意欲がなかったため
13	就労継続支援B型	3	・③④ ・③ ・③④
16	共同生活援助	1	⑤女性専用のグルホが少なく、空きがない
18	計画相談支援	1	④
23	放課後等デイサービス	2	・① ・①
28	地域活動支援センター	1	④⑤

(理由の番号)

- ①希望される時間帯に利用が集中し、依頼時には定員に達していた。
- ②希望される時間帯に、事業所として事業提供していなかった（夜間、休祝日など）。
- ③事業所では対応できない困難ケースだった（障害種別、障害程度など）。
- ④新規契約者を受け入れる余裕がなかった（職員体制など）。
- ⑤その他（理由記載）

【問4】

利用者からの要望が多いが、不足していると感じ事業と、その事業に対して増員等が進まない理由

	事業名	事業所数	理 由
1	居宅介護	2	・④ ・①②
2	重度訪問介護	1	①④
3	行動援護	1	②④
6	生活介護	3	・③④ ・①②③④ ・③④
7	短期入所	3	・④ ・⑦困難ケースを受け入れる余裕がない ・③④
10	施設入所支援	2	・①③④ ・①③④
12	就労継続支援A型	2	・⑦ノウハウがわかる人がいない。仕事内容の確保が難しい。 ・①③⑦体力のある企業が少ない
13	就労継続支援B型	5	・③施設の狭さ ・④⑤ ・②精神的不調による長期欠席や利用日が1～3回/週の方が多。③現在、空き納屋4か所を借用しての活動だが、これ以上は無理がある。④給料を上げられないし、モチベーションの高い人が少ない。⑤現在の工賃算定基準では②の理由で平均工賃が下がってしまう。また、提供時間が短い作業所の方が工賃が上がる、この2点の是正を国に訴えてほしい。 ・④⑤ ・④
14	自立訓練（機能訓練）	1	①②④
15	自立訓練（生活訓練）	2	・①②③④ ・①②④
16	共同生活援助	5	・③④⑤ ・④⑤ ・①②③④※日中型のGHができるといい。 ・①③④ ・①②③④
21	児童発達支援	1	①②④⑤
23	放課後等デイサービス	4	・③④ ・③④⑤ ・③④ ・③④

	事業名	事業所数	理由
28	地域活動支援センター	1	③④⑤
29	日中一時支援事業	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ ③④ ・ ③④⑤ ・ ③④ ・ ⑤⑦今後の園の在り方として、佐渡圏域の児童を対象とした施設に転換することが必要であるとする。成人で園の短期入所や日中一時支援を利用される方のしかるべき施設への移行について、関係機関や保護者への働きかけなど、佐渡市の力添えをお願いしたい。 ・ ①②④⑤ ・ ③④⑤

(理由の番号)

- ①利用者需要の見込みが立てづらい。
- ②利用者の継続的な確保が困難。
- ③事業の提供場所（土地や建物）の確保が困難。
- ④職員の確保が困難。
- ⑤報酬単価が低く採算性に不安がある。
- ⑥わからない
- ⑦その他（理由記載）

団体ヒアリング調査

ヒアリング依頼団体 3団体

回答団体数 3団体

2. 団体の活動について

(1) 今後力を入れていきたい活動内容

- 次の活動について、参加しやすい内容と方法を検討しながら実施したい。
 - ・ 軽スポーツを通し、健康・仲間づくりを支援する活動
 - ・ 会食、バスハイク等体験や外出を支援する活動
 - ・ 社会とのつながりを目的とした訪問活動
- 親なきあと、子どもが高齢者になっても安心して暮らせるような道筋をつける活動。
具体的には、障がい高齢者専用の特別養護老人ホームの建設を実現するための活動。
(知的障がい者と一般高齢者が同一の施設で生活するのは無理である。)
- 精神障がい者に対する偏見をなくし、地域で暮らしていけるよう病気の理解を広げるための活動として、紙芝居を作成中。

(2) 活動を実施する上で困っていること

- ・ 会員の高齢化により活動会員が減少
- ・ 個人情報保護により手帳所持者の情報が得られず、団体加入促進のための周知活動が困
- ・ 新しい会員が入らず、会員数が減少している。
(佐渡市の障がい福祉サービスの向上により、若い保護者は団体に興味がない?)
- ・ 会員が高齢になり、主となってやれる人材が少なく、ひとりに役割が集中し疲弊してしまう。

(3) 現在の活動を実施する上での問題点と改善すべき課題

- ・ 市の各地区にいる会員を集めての活動になるため、時間や経費がかかるが、現在のところ活動資金があるのでレンタカー・事業所に依頼し実施できているので問題ない。
- ・ 会員(親などの保護者)が高齢化し活動できなくなると、子どもたちも活動できなくなってしまう。そのような子供たちをどうサポートしていくか。
- ・ 会員が高齢になり、主となってやれる人材が少なく、ひとりに役割が集中し疲弊してしまう。
- ・ 会員の高齢化に伴い、活動自体が難しくなっている。
- ・ 精神障がい者は増えているが、家族会に入会する方が少ない。高齢化で大会する会員もおり、先細りである。

(4) 困っていること、問題点や課題を解決するために何が必要か

- ・ 会員たちが、課題等について話し合い、共有する機会を増やす。
- ・ 新規家族会員を増やすため、SNSでの発信等、活動していることの発信をしていくことが必要と考えるが、できる会員がいない。事務局がそこまで業務多忙でできない。

(5) 課題解決のために、どのような機関・団体と連携したいか

- ・ 市団体の意見は、県団体から全国団体、国への順序で上がっていくので、県団体との連携が必要。
- ・ 家族会事務局だけでなく、市役所の他の部署(どこかはわからないが)と連携し、活動を継続できるとよい。

(6) 今後、活動団体が増えていく、継続していくためにはどのようなことが必要か

- ・ 発達障がいや自閉症等、声が表に出ていない個人や当事者団体のことをサポートする。
- ・ 様々な障がいについての勉強会を開催する。
- ・ 市役所の保健師が事務局をもつのは業務多忙で大変厳しく、手厚い支援ができないため、市役所以外で事務局をもってもらえるとよいと考える。
- ・ 保健師は個の支援や親の支援として関わっていければよいと考える。

3. 障がい福祉サービスについて

- ### (1) サービスをよりよいものにするために、どの主体が何を行うことが最も有効と考えるか

- (2) 今後必要と思われる新たなサービスや見直しすべきサービス、市内で足りていない・取り組みが弱いサービス、計画に盛り込むべきサービスについて
- ・ 障がい者が気軽に安価に利用できる交通手段
 - ・ 透析の方の送迎システム
 - ・ 気軽に相談できる窓口
 - 相談支援事業所との関りが終了となり、孤立している障がい者のための窓口
 - 透析の食事・生活相談の窓口
 - ・ ICTを活用した情報提供・見守りサービス
 - ・ 乳幼児の発達支援サービス
 - ・ 障がい高齢者専用の特別養護老人ホームの建設
 - ・ 相談支援事業所が足りず、利用したい時にタイムリーに利用できないことが起こっているため、佐渡という地域ではあるが、事業所が増えるとよいと考える。

4. その他

- (1) 団体の活動や障がい福祉サービス等で、行政に対する意見・要望
- ・ 団体チラシを市の窓口においてもらってる。障がい者手帳申請の際には積極的に案内し、団体加入につなげてほしい。
- (2) 障がい福祉計画や障がい福祉行政全般に関する事などで、気付いた点や希望すること
- ・ まだまだ障がい者に対する理解が弱く、差別も顕在している。関わり方や障がいの特性を学ぶ機会がもっと必要。
 - ・ 障がいへの理解が進むことで、偏見や差別が減り、支え合いが進むと思うので、学ぶ対象者に合わせた学習内容による講座等を実施し、佐渡が障がいのある方に対してあたたかい島になってほしい。
 - ・ 退院してもすぐまた入院してしまうケースがある。家族と疎遠で、サービスも拒否、集団行動ができない方の支援が難しい。
 - ・ 佐渡の様々な障がい福祉関連機関が増え、ひとりの障がい者に大勢の支援者が関わってよいと思う。
 - ・ 佐渡は交通の便が悪く、町内に住んでいればよいが、へき地では作業所へ通うこともままならない方もいる。中学校区で一つ作業所ができるとよい。作業所へ通うことができれば、生活習慣が整い安定した生活ができるのではないかと考える。